

特集 I

上越と 直江兼続

「景勝英邁の資質を有し、加ふるに重臣直江兼続（山城守）是れ亦英傑の資を以て帷幄^{いあく}（註）にあった為め、御館の騒乱後の越佐統治、謙信没後の対外政策等多事多難の局面によく謙信在世當時の威容を失墜せしめず、是れ偏に直江兼続の参画によると云ふ」

これは、『直江津町史』に記された、御館の乱後の上杉景勝、直江兼続主従の越後・佐渡統治に関する記述です。「治富興産」「救世濟生」という、優れた経済・産業政策と民衆に対する深い慈愛に満ちた「仁政」で慕われた上杉謙信。その謙信亡きあとの厳しい状況の下、兼続が謙信の政策の基本を守りつつ、景勝を極めてよく補佐したことがうかがえます。

また、『米澤市史』総説編には、「兼続主として城邑経営の任に當り、特に民治に力を注ぎ、開墾・治水・植林等特筆大書すべきこと甚だ多く、又城濠を修理し、諸士の屋敷割を行う。是に於てか、野に毒草絶え、山に枯木無く、一藩始めて都城の体裁を備ふるに至り、後年、上杉治下に於ける規矩大^{おお}凡^{よそ}此時に端を發す。兼続は文武の雄才たるのみならず、実に米澤開拓の恩人たり」との記述があります。越後春日山で師と仰ぐ謙信に学んだ行政手腕を越後ではもちろんのこと、転封後の米沢藩でも大いに發揮し、後年まで藩政及びまちづくりの恩人と慕われていることがよく分かります。



「直江兼続像」米沢市上杉博物館蔵

上田庄坂戸城下（現南魚沼市）に生まれ、春日山（上越）で謙信の教えを受けるとともに景勝を輔けて越後を経営し、その後時代の流れの中で会津、米沢と拠点を変えた直江兼続。これまで上越では、兼続について、謙信公ほどは多く語られてきませんでした。NHK 大河ドラマ「天地人」が放映されている今年、上杉家の本拠地である上越における兼続の足跡を追い、改めて上越と直江兼続について考えます。

注：参謀・補佐官のこと